

感想（アンケートより抜粋）

◆企業訪問を通じて、中国の経済成長の底堅さを感じるとともに、社会科学院の研究者も話していたように、それだけに格差も大きいだろうということも感じた。また、メディア関係者との話では、日本と同じようにネットのニューメディアの台頭への対応を迫られていることを知った。また、微博のように記者個人や一般国民が意見表明、情報伝達する手段が広まっていることに興味を覚えたが、一方で政府の報道への制約は強いのだろうと思った。全体として経済発展が続いていく中で、富の再分配、社会保障制度の構築、南シナ海への進出など近隣国との摩擦の緩和など課題も大きいと思った。

◆メディア関係者交流会で、中国の若手記者の率直な意見を聞いた。日本にいと報道規制の面が強く感じられるが、現場の記者はそれほど深く規制に影響を感じておらず、比較的自由な感覚で取材をしているように感じた。「日本の報道の方が画一的」という指摘も耳に痛く、おそらく当局と折り合いをつけてニュースを作っているという面は中国も日本も変わらないと感じた。日本の報道のあり方を考えなおすきっかけになった。

◆中国の発展段階は日本の数十年前と似ていると形容され、確かにそういう雰囲気を感じた。しかし現代のグローバル化、ネットの普及で日本の当時のそれよりも構造が非常に複雑になっている。それをどのように生かし、あるいは苦しみながら発展していくのかを注視していきたい。

◆中国の既存メディアがニューメディアに対し非常に強い危機感を持っていることが大変印象的だった。現場の記者と意見交換することもでき興味深かった。こうした日本メディアと共通の課題がある一方で、大手新聞社が紙媒体での発行部数を伸ばしていると聞き、中国特有の事情や背景もあるのだと実感した。（中略）企業訪問等で中国の勢いを感じた一方で、言論の自由という観点からは、まだまだ改善されるべき余地を残しているということも肌で感じる事ができた。

◆メディア関係者との交流は、報道という共通のテーマについて意見を交わせ、非常に勉強になった。国を安定させることを第一に考えるという報道の方針は日本のメディアとは異なるため、とても考えさせられた。

◆これまで日本で報道されている中国よりは、現状ははるかに開発が進んでいる点に大きな衝撃を受けた。また、驚いたことの一つに「一人っ子政策」が変化していることがあげられる。時代の変化にあわせて政策を変える柔軟性もあることに驚いた。閉塞感のある日本は、中国のダイナミズムな行動力は必要であり、学ぶべきだと感じた。

◆近代的かつ巨大なビル群に圧倒された。特に瀋陽は建設中のビルが数多くあり、その数は日本では考えられないほどであった。官民一体となって都市計画を推進している姿が印象的。

- ・道路の広さ、車の多さは想像をはるかに超えていた。ただ運転マナー、歩行者のマナーにはまだまだ改善しなければならないと思う（危険すぎる）。
- ・街が近代化する中でも歴史、文化を大切にしている姿勢が貫かれており感心した。
- ・野外広告の充実が目についた。大きなビルが多いので広告設置がしやすいのが要因か。
- ・伝統メディアがニューメディアの登場で変革を迫られている状況は日本と同じ。ただし伝統メディアにもまだ読者、視聴者の伸びしろがある点は日本と異なる。
- ・国の資本が入るメディアに言論の自由がどこまで許容されているか、国の政策に対してクリティカルな論調での情報発信が許容されているかが疑問。
- ・テレビのチャンネル数が非常に多いので番組の質がどこまで保たれているのか？CMの量が日本と比較して少ないように感じた。